

産官学連携で技術伝承

JCI中部維持管理討論会



石川会長

日本コンクリート工学会（JCI）中部支部は4月27日、金沢市内の石川県地場産業振興センターで「これか

らの維持管理を担う人材をいかに育成するか」と題するフォーラムを開催した。石川・

富山・福井の北陸3県コンクリート診断士会と北陸SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）との連携で開いた。長崎大学の松田浩教授が基調講演を

行ったほか、人材育成や診断士会をテーマに討論した。

開会時に調査研究事業委員会の石川裕夏委員長（福井県コンクリート診断士会会長）はフォーラムについて、北陸3県のコンクリート診断士会が中心となつて企画したと説



診断士会をテーマに討論

明した上で「産官学民に加え、北陸SIPと連携することで人材育成、技術の伝承を図る目的がある」と述べた。基調講演では「地方

の道をいかに守っていくか」ナガサキにおけるインフラ長寿命化の取り組み」を松田教授が講演した。松田教授は木曽川大橋（三重県）のトラス橋の斜材の破断や本庄大橋（秋田県）のコンクリート埋込部の緊急点検、笹子トンネル（山梨県）天井板落下事故などの事例を取り上げ、長崎大学にインフラ長寿命化センターを設立した経緯を説明した。その上で、長崎県が取り組む「道守」養成講座や各種点検手法の事例を紹介した。

また、「北陸三県コンクリート診断士会および教育機関による人材育成の取り組み」「北陸SIPによる地域実装の取り組みから見えてきたコンクリート診断士会への期待」の2題でパネルディスカッションを行った。診断士会への期待では、自治体のインフラ管理者の取り組みや課題、学識者が診断士会への期待をテーマに話題を提供し、その後ディスカッションを行った。